

8/2 旗

「法的安定性は関係ない」と戦争法案についてこう言い放った礒崎陽輔首相補佐官の発言は、与党内からも辞任論が出るなど安倍政権を直撃しています。3日には参院安保法制特別委員会で礒崎氏の参考人質疑が行われます。憲法無視、民意を踏みにじる安倍政権の体質が問われています。

(北野ひろみ)

安倍政権

「法的安定性」とは、憲法や法律の解釈・規定が勝手に変更されず、安定していることです。いわば、法治国家、民主主義の基盤です。

法的安定性

ところが、これを真つ向から否定したのが礒崎氏の暴言でした。7月25日の大分市内での講演で戦争法案

礒崎氏だけじゃない

戦争法案をめぐる政府・自民党の発言

(礒崎氏の発言は) 安全保障環境を十分に踏まえる必要があるとの認識を示した発言だ (7月28日、参院安保特委)



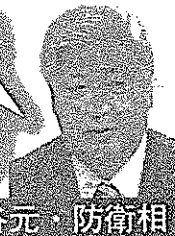
安倍晋三首相

法的安定性は関係ない。…時代が変わったのだから政府の(憲法)解釈は必要に応じて変わる (7月26日、大分市で)



礒崎陽輔首相補佐官

現在の憲法をいかにこの法案に適用させていけばいいかという議論を踏まえ(法案の)閣議決定を行った (6月5日、衆院安保特)



中谷元・防衛相

憲法学者は9条2項の字面に拘泥する(6月5日、前日の憲法審査会での憲法学者の「違憲」発言に対して)



高村正彦自民党副総裁

法治国家否定体質

を「違憲」と指摘した憲法学者に対し、「憲法に自衛権というのは何も書いていない。憲法に書いてないのに憲法違反なんかあるはずない」と発言。続く26日の同市内での講演では「法的安定性は関係ない」「時代が変わったのだから、政府

態度は変わらず

の解釈は必要に応じて変わる」とまで述べたのです。暴言に対する批判の高まりに礒崎氏は、「ご迷惑をかけた」などとツイッターで弁解していますが、「時代」や「国際情勢の変化」だけで憲法の規範は変わってもいいという態度は変わ

首相の側近から

っていません。安倍晋三首相は礒崎氏の暴言に対し、「わが国をとりまく安全保障環境を十分に踏まえる必要があるとの認識を示した発言だ」と擁護。「誤解をもたれるような発言は慎まなければならぬ」などと述べただけ

法秩序自体無視

で、礒崎氏と同じく立憲主義を否定する問題への反省はまったく見られません。暴言何度も 重大なのは、こうした憲法無視の暴言が、戦争法案の審議と並行して安倍首相の側近から繰り返されてきたことです。 中谷元・防衛相は、戦争法案について「現在の憲法をいかにこの法案に適用させていけばいいのかという議論を踏まえて閣議決定を行った」(6月5日の衆院安保法制特別委)と答弁。 法案ありきで憲法解釈をねじ曲げたという本音を吐露したもので、その後答弁撤回に追い込まれました。 自民党の高村正彦副総裁は、与党推薦を含む憲法学者全員が相次いで戦争法案を「違憲」と表明したことを受けて「憲法学者はどのようにしても憲法9条9項の字面に拘泥(こうでい)する」(6月5日の自民党役員連絡会)と攻撃しています。

安倍首相を支持する自民党若手議員らの会合では、一法案に否定的な「マスコミを懲らしめるには広告収入料がなくなるのが一番。経団連に働きかけてほしい」(大西英男議員)と、言論弾圧の暴言まで飛び出しました。 学者ら批判 憲法研究者らで廃案を求める声明を発表している憲法学者の永山茂樹東海大教授は7月28日の記者会見で、「法的安定性を軽視することは、単に憲法の力を弱めるだけでなく、一切の法秩序自体を無視するということ」と厳しく指摘。小沢隆一東京慈恵会医科大学教授は「憲法解釈が変わってはいけない」ということは一般論としてはいえないが、いま政府がやるうとしていえることは権力を縛ってきた法解釈を緩め、そこから逃げる法解釈や変更でありそれは許されぬ」と批判しています。